

2022年2月8日実施  
 日本大学芸術学部 一般選抜入試A方式 第1期第1週目  
 学力試験 英語 解答例  
 (配点は当校の推定によるものです)

<英語>

【Ⅰ】 配点：24点；各3点

(1) <u>    <b>A</b>    </u>	(2) <u>    <b>D</b>    </u>	(3) <u>    <b>D</b>    </u>	(4) <u>    <b>A</b>    </u>
(5) <u>    <b>A</b>    </u>	(6) <u>    <b>A</b>    </u>	(7) <u>    <b>B</b>    </u>	(8) <u>    <b>B</b>    </u>

【Ⅱ】 配点：16点；各2点

(9) <u>    <b>D</b>    </u>	(10) <u>    <b>B</b>    </u>	(11) <u>    <b>A</b>    </u>	(12) <u>    <b>B</b>    </u>
(13) <u>    <b>A</b>    </u>	(14) <u>    <b>B</b>    </u>	(15) <u>    <b>C</b>    </u>	(16) <u>    <b>A</b>    </u>

【Ⅲ】 配点：24点；各4点

(17) <u>    <b>C</b>    </u>	(18) <u>    <b>D</b>    </u>	(19) <u>    <b>B</b>    </u>
(20) <u>    <b>C</b>    </u>	(21) <u>    <b>A</b>    </u>	(22) <u>    <b>A</b>    </u>

【Ⅳ】 配点：18点；各3点

(23) <u>    <b>D</b>    </u>	(24) <u>    <b>B</b>    </u>	(25) <u>    <b>A</b>    </u>
(26) <u>    <b>A</b>    </u>	(27) <u>    <b>D</b>    </u>	(28) <u>    <b>B</b>    </u>

【Ⅴ】 配点：18点；各3点

(29) <u>    <b>B</b>    </u>	(30) <u>    <b>D</b>    </u>	(31) <u>    <b>C</b>    </u>
(32) <u>    <b>D</b>    </u>	(33) <u>    <b>D</b>    </u>	(34) <u>    <b>A</b>    </u>

【短評】

大問数及び出題形式、出題順は昨年通り。難易度も例年通りで受験生にとっては取り組みやすかったと思われる。

[Ⅰ]正誤問題は、動詞の語法、文型などに注意すれば「標準レベル」。必ず1つ間違いがあるので、適宜消去法を用いるとよい。

[Ⅱ]文法4択問題は、語彙力やイディオムを問う知識問題。「ほぼ標準レベル」だが、例年に比べると若干細かい知識が問われた。

[Ⅲ]長文内容一致問題は、問題文は「やや難」だが、設問自体はさほど複雑ではない。ただし、設問の順序と本文の内容の展開が完全に一致する訳ではないので、本文参照箇所を素早く探するのが解答のカギとなる。なお、(22)については本文の複数箇所の参照が必要。

[Ⅳ]会話文は、しばしば見られる[Ⅲ]長文内容一致問題と内容が関連したパターン。[Ⅲ]に比べると読みやすいので、先にこちらの問題を解くのも一つの戦略。選択肢の品詞がほぼ統一されているので、単語力が試される。

[Ⅴ]空所補充問題は、例年通り問題文は「やや難」。語彙力のみで解く設問だけでなく、一部文法知識を要する設問もあった。

2022年2月8日実施  
 日本大学芸術学部 一般選抜入試A方式 第1期第1週目  
 学力試験 国語 解答例  
 (配点は当校の推定によるものです)

【訂正】国語は【Ⅲ】問三、六にミスがありましたので訂正致します。※赤字で表記

<国語>

【Ⅰ】 配点：30点；各5点

一	3	二	4	三	1
四	1	五	2	六	3

【Ⅱ】 配点：30点；各5点

一	4	二	3	三	4
四	2	五	3	六	1

【Ⅲ】 配点：30点；問一・二 各2点、問三～七 各4点

一a	2	一b	2	一c	1	二A	4	二B	3
三	2	四	4	五	1	六	4	七	4

【Ⅳ】 配点：5点；問一～三 各1点 問四 2点

一	1	二	1	三	4	四	4
---	---	---	---	---	---	---	---

【Ⅴ】 配点：5点；問一 各1点 問二 2点

一a	1	一b	4	一c	3	問二	4
----	---	----	---	----	---	----	---

【短評】

大問数及び出題形式は例年通り。全体としては昨年並みの難易度と思われる。ただ大問【Ⅰ】で時間を取られた受験生は時間配分が難しくなり、後の問題解答に焦った受験生もいたのではないかと推察される。

【Ⅰ】現代文：文章量は昨年並だが、文章自体が抽象的な内容で、選択肢も長くなり「難化」。問四は正解の選択肢が傍線部Bの説明としては大雑把な印象を受ける。

【Ⅱ】現代文：文章量や難易度などは昨年と大きく変わらない。例えば問三では設問指示がやや不適切で迷った受験生もいたことが推察される。問六は受験生にとっては少し意地悪な問題という印象。

【Ⅲ】古文：今回の出典である上島鬼貫『独ごと』は江戸中期の俳論書。古文の難易度は年々「易化」している印象を受ける。古文単語の意味を正確に把握することが大切。単語や文法といった基礎がしっかり出来ていれば解ける問題である。

【Ⅳ】文学史：問一は太宰が芥川龍之介賞を受賞していないのは有名。知っていれば間違ふことのない問題。【Ⅴ】国語表現は例年通りの難易度。従来出題のあった漢字の単独出題がなくなった。